

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：商業動態統計(2015年10月)

発表日：2015年11月30日(月)

～実質小売業販売額は緩やかな増加基調～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 高橋 大輝
TEL：03-5221-4524

(単位：%)

		商業販売額		卸売業		小売業		百貨店・スーパー			
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	百貨店		スーパー	
								前年比	既存店 前年比	前年比	既存店 前年比
2014	1月	4.4	1.8	4.4	2.8	4.4	1.6	0.7	0.0	3.3	▲ 1.8
	2月	2.5	▲ 1.8	2.0	▲ 1.6	3.6	0.1	2.4	1.4	2.9	0.6
	3月	8.5	7.0	7.5	4.0	11.0	6.5	17.0	16.2	25.3	11.1
	4月	▲ 3.4	▲ 10.3	▲ 3.0	▲ 9.4	▲ 4.3	▲ 13.4	▲ 6.0	▲ 6.7	▲ 9.9	▲ 5.1
	5月	▲ 1.0	2.6	▲ 1.3	2.0	▲ 0.4	3.8	▲ 0.5	▲ 1.2	▲ 1.9	▲ 0.8
	6月	▲ 0.6	▲ 0.2	▲ 0.5	▲ 0.3	▲ 0.6	0.9	▲ 1.2	▲ 1.8	▲ 2.3	▲ 1.5
	7月	0.1	0.6	▲ 0.1	0.9	0.6	0.6	0.3	▲ 0.6	▲ 0.4	▲ 0.7
	8月	▲ 1.6	▲ 1.5	▲ 2.8	▲ 0.5	1.2	1.2	2.8	1.6	2.0	1.4
	9月	1.6	2.8	1.3	1.7	2.3	1.7	1.7	0.5	1.8	0.0
	10月	0.3	▲ 0.9	▲ 0.1	0.0	1.4	▲ 0.6	1.0	0.0	0.2	▲ 0.1
	11月	▲ 2.7	▲ 1.6	▲ 4.1	▲ 0.8	0.5	0.0	1.9	1.1	1.5	0.9
	12月	▲ 1.4	0.8	▲ 2.0	0.1	0.1	0.0	0.7	0.1	0.6	▲ 0.2
2015	1月	▲ 2.7	0.5	▲ 3.1	2.3	▲ 2.0	▲ 1.9	0.6	0.0	▲ 0.4	0.2
	2月	▲ 3.3	▲ 2.4	▲ 4.0	▲ 3.4	▲ 1.7	0.7	2.0	1.3	3.5	0.2
	3月	▲ 8.3	1.4	▲ 7.7	▲ 1.0	▲ 9.7	▲ 1.8	▲ 12.3	▲ 13.0	▲ 17.7	▲ 10.1
	4月	2.5	0.4	1.5	0.5	4.9	0.3	9.5	8.6	13.7	6.3
	5月	▲ 1.9	▲ 1.9	▲ 4.1	▲ 3.0	3.0	1.7	6.3	5.3	6.3	4.8
	6月	1.1	3.0	1.1	3.6	1.0	▲ 0.6	0.6	▲ 0.3	0.4	▲ 0.6
	7月	0.1	▲ 0.4	▲ 0.7	0.0	1.8	1.4	3.2	2.1	3.6	1.2
	8月	▲ 0.3	▲ 1.8	▲ 0.8	▲ 0.5	0.8	0.0	2.6	1.8	2.7	1.4
	9月	▲ 2.1	0.8	▲ 2.9	▲ 0.6	▲ 0.1	0.8	2.6	1.7	1.9	1.6
	10月	▲ 0.8	0.4	▲ 1.9	2.1	1.8	1.1	4.0	2.9	4.2	2.3

○実質小売業販売額は緩やかな増加基調

経済産業省から発表された10月の小売業販売額は、前年比+1.8%（コンセンサス：同+0.9%、レンジ：同▲0.7%～+2.5%）とコンセンサスを上回った。季節調整値でも、前月比+1.1%と9月に続いて増加し、良好な結果だったと評価されよう。経済産業省による基調判断は前月の「一部に弱さがみられるものの横ばい圏」から「持ち直しの動きがみられる」に上方修正された。

物価の影響を考慮した実質小売業販売額（実質化、季節調整は筆者）は、前月比+0.4%と4ヶ月連続の増加となった。10月の家計調査では回復感に欠ける推移が続いたが、実質小売業販売額は緩やかな増加基調を辿っている。実質消費支出と実質小売業販売額で乖離が見られるが、供給側から消費をみた消費財出荷や業界統計なども参考にすると、消費の実勢は緩やかながらも持ち直していると判断される。

○業種別の推移

小売業販売額（名目、季節調整値）の内訳をみると、7業種中5業種が増加、1業種が横ばいと内容も良好だった。「自動車小売業」が前月比+4.4%と高い伸びになり、小売業販売額を牽引した。前月に大幅減少した反動の面もあるとみられ、今月の増加幅については割り引いてみる必要があるが、これまで減少傾向が続いていた「自動車小売業」に漸く底打ちの兆しがでてきたことは好材料だ。また、「医薬品・化粧品小

売業を含むその他小売業」が同+1.3%、「機械器具小売業」が同+1.3%と増加に寄与した。

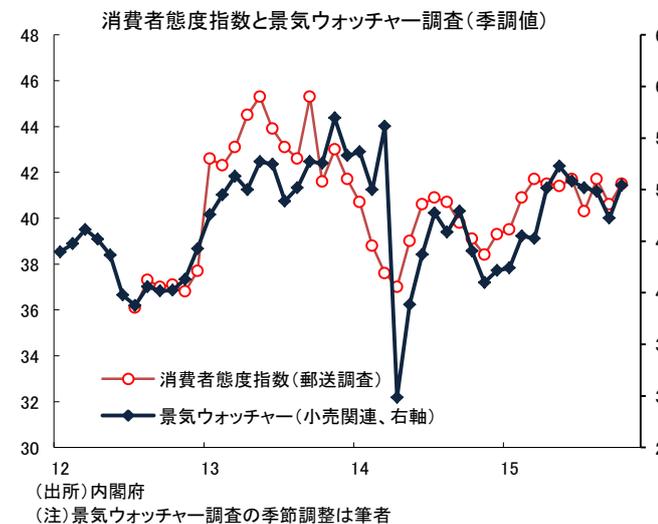
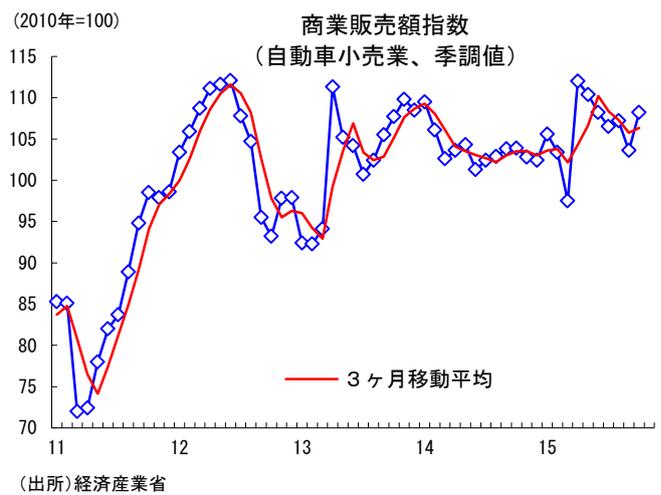
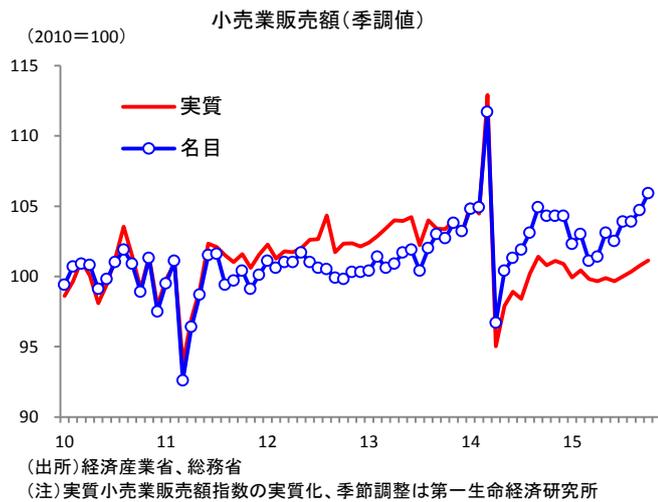
一方で、「織物・衣服・身の回り品小売業」が同▲2.5%と減少に寄与した。もっとも、前月の大幅増加（9月：同+6.1%）の割に、減少幅は小さなものに留まっており悪くない結果だ。

以上のように、10月の小売業販売額は内訳をみても好調だったと評価される。ただし、百貨店を含む「各種商品小売業」や「機械器具小売業」は一進一退の推移であり、水準は低いものに留まっていること、「燃料小売業」はガソリン価格の下落を背景に再び減少する可能性があることなど気がかりな点もある。総じてみれば、小売業販売額は緩やかに持ち直しつつあるが、先行きの動向にはまだ油断できないだろう。

○雇用所得環境が個人消費の下支えに

先行きの個人消費は、雇用所得環境の改善が下支えとなることで緩やかな改善基調を辿るものとみている。雇用者数は増加基調を維持しており、雇用に先行する新規求人数は高水準にあることを踏まえれば、雇用環境は先行きも良好な状態が続くだろう。賃金については、大部分を占める所定内給与は前年比プラスが続いており、ベア効果の顕在化や労働需給の逼迫を背景に当面は緩やかな増加基調が続くとみている。

一方で、家計の節約志向は根強いこと、消費者マインドは横ばい圏の推移を脱していないこと、冬のボーナスも減少する可能性が高いことなど、懸念材料も尽きない。10月の実質小売業販売額は良好な結果であったが、こうした要因や家計調査の結果も併せて考えると、個人消費の回復ペースについては引き続き慎重な見方が必要だろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。